

## 新しい道を切り拓いた いわての女性たち ④ 無医村に保健の灯 保健婦第1号 伊藤 シクメ

1941(昭16)年、岩手県内で保健婦規則制定により保健婦第1号となり保健医療の道を拓いた先駆者です。前身は、皇后陛下の御下賜金ではじまった「恩賜救療産婆」で1932(昭7)年から只一人で県内を巡回し、多大な業績を残されました。

1903(明36)年江刺郡梁川村(現奥州市江刺区)の住職の二女として生まれ、1920(大9)年、16歳で岩手産婆看護婦学校に入る。翌年、産婆看護婦の免状を取る。当時の校長三田俊次郎(岩手医大創立者)は「産婆の婆は、ババアの婆という字を書く。君たち将来、産婆になろうとするものは、美しいものを着たいなどと思っはならない」と訓辞したが、それに対して一同で白紙の答案を出したり、招魂祭の参拝に校旗持ちを残して逃げたり、天衣無縫の抵抗をした。卒業後、茨城県で病院を経営する安藤太郎にあずけられ「私の一生の基礎をつくってもらったようなもの」という。三年後に兄と母が亡くなり郷里へ帰ったが、茨城県の派出看護婦会に触発されて、盛岡に看護婦協会開設の火つけ役となった。(21歳の頃)

結婚して茅ヶ崎に療養所を建てたが、夫が結核で死亡。女性を守る憲法などない時代、赤ん坊をつれて、からだひとつで郷里へ返された。

冷害の救済のため県内に「恩賜救療産婆」が創設された際に、シクメは医業の恩恵に浴さない地方の人々のために働く。「広い岩手県、一人で歩いたところで、天から目薬みたいなもの、一日70キロも歩いたなんて言ってもウソだと思われてしまうんですよ。家に帰ると山の中で待っている人の顔が見えてくるんですよ。もうだめだと思いながら元気を回復すると、またノコノコ出かけるんですよ。」という。岩手の保健婦の出発は、こうして始まった。

戦争が始まった年に保健婦規則ができ、国策という大きな事業が動き出す。全国一乳幼児の死亡率が高かった岩手県が全国平均に近くなり保健婦という仕事は目立たない存在だが大きい役割をもっていると自信を持った。戦争を境に個人の仕事から組織集団の仕事に変化して行ったが、時代の変化にかかわらず「人間を相手にする仕事は、やはり心が一番です。」という。

昭和55年1月22日、シクメ77歳の生涯を閉じる。

- 【参考図書】  
・『生きて輝いて一変動期を生きぬいた女たちの記録ー』熊谷佳枝(著)1998年  
・『岩手の婦人』岩手県(著)1981年



## ● 女性相談 (本館)

相談受付電話 **019-604-3304**

女性がかかえる、家庭や職場、身の回りのさまざまな悩みを、専門の相談員と一緒に考えます。性別や社会通念にとらわれず、一人ひとりの生き方を尊重する社会の実現をめざして、相談室はあなたらしい生き方を支援します。

- 相談には電話相談と面接相談があり、予約が必要です。
- 相談は無料です。秘密はかたく守ります。
- 相談開設時間

	10:00	17:00	20:00
月	10:00 ~ 17:00		
火	10:00 ~ 17:00		
水	10:00 ~ 20:00		
木	10:00 ~ 20:00		
金	10:00 ~ 17:00		

(第2火曜日、年末年始、祝日は休み)



## もりおか女性センター

管理・運営: 特定非営利活動法人 参画プランニングいわて

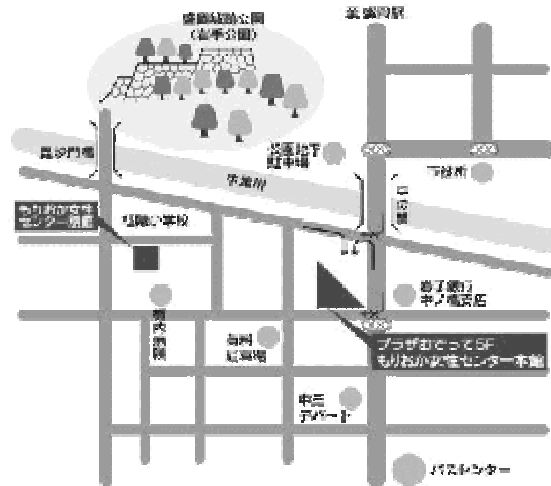
もりおか女性センターは、女と男がともに参画する社会をめざして女性をとりまく様々な問題を考え、解決するための施設です。男女を問わず、すべての市民が気軽に利用できます。

### ■ 本館

〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通1-1-10プラザおでっ5階  
電話番号 (019) 604-3303 FAX 050-2013-4750  
開館時間 月曜日~金曜日9:00~21:30(土日祝17:00まで)  
休館日 毎月第2火曜日、年末年始

### ■ 別館

〒020-0878 岩手県盛岡市肴町2-8(旧盛岡市働く婦人の家)  
電話番号 (019) 624-3583(FAX兼)  
開館時間 月曜日~金曜日 9:00~21:00  
休館日 土曜日、日曜日、祝日、年末年始



(バス)  
盛岡駅より茶畑・バスセンター方面行き バスセンター前下車  
本館まで徒歩3分、別館まで徒歩8分  
※女性センターには、本館・別館ともに専用の駐車場はありません。  
おでっ地下駐車場や近隣の有料駐車場をご利用ください。

ホームページ <http://mjc.sankaku-npo.jp>

### あとがき

- ◆毎年、年賀状の季節になると思いだす友人がいます。遠方に嫁いだ先輩です。もう何年も会っていないのですが、ずっと年賀状のやり取りは続いています。たった2~3行の言葉でも今の様子が伝わってきて嬉しいです。いまメールの時代、でもメールにはない手書きの良さを実感しています。(N)
- ◆正月休みはTVを見る暇もないほどに動きまわり、これは今年一年を暗示か…と少々戦々恐々としている次第(冷汗)。今年の抱負…「ハマをしないようほげないように頑張る！」(できれば体重減量も…それは無理か…) (Y)

ひとひと  
一女と男、ともに参画する社会をめざして

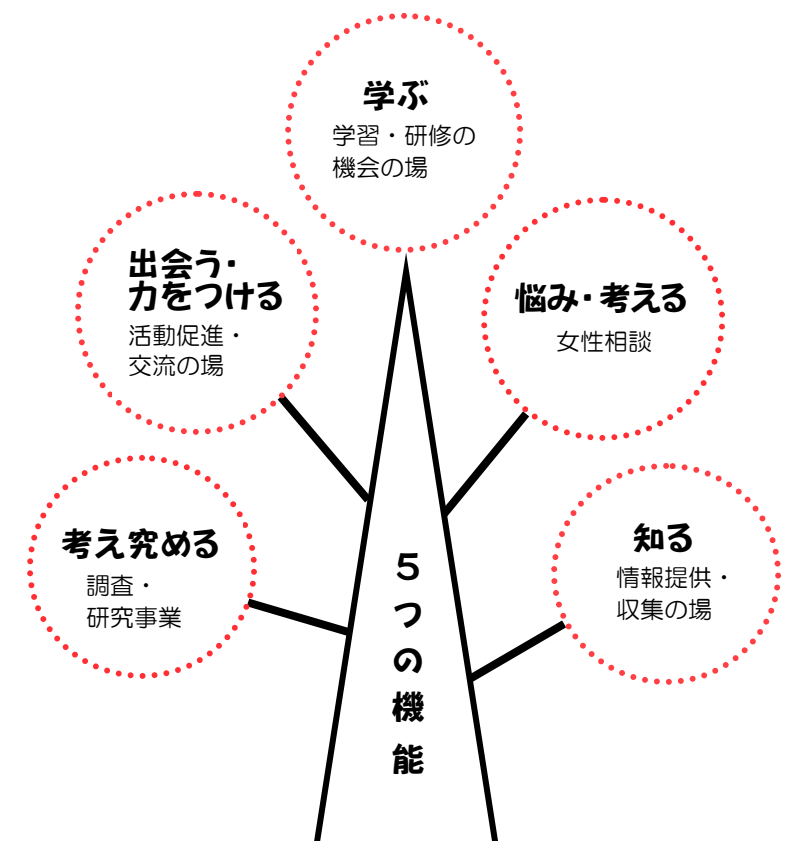
# もりおか女性センター

2010年  
1月  
No. 22

## ニュースレター

内容

- ◎ 新年ごあいさつ
- ◎ 講座情報/事業終了報告
- ◎ 図書紹介
- ◎ トピックス
- ◎ 新しい道を切り拓いた いわての女性たち など



平成21年度事業テーマ『広げよう、わたしたちの学びと行動を!』

発行: もりおか女性センター

## ● 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。  
昨年は皆様大変お世話になりました。本年もどうぞよろしく願いいたします。

一面の銀世界で一年が始まりました。2010年という切のいい年です。おでつては2000年に開館しましたので、ちょうど10年が経過したということになります。

今年は、もりおか女性センターも少し大きくなり、昨年の配偶者暴力相談支援センターの設置に引き続き、女性の起業を支援するルームを立ち上げます。岩手には資源がたくさん眠っています。女性の能力もその一つです。このルームには新しい常設パソコンが入ります。ITを使って世界に発信できる力を養いたいと思います。

年が明けて仕事はじめに窓の下の中津川を見たら、10羽ほどの白鳥が来ていました。

春までここを住みかにするのでしょう。  
白鳥が待っています、お出かけください。

センター長 平賀圭子



## ● 講座の情報

参加費無料

### 女性のからだところを考える講座 「女性外来って、どんなところ？」

日 程：2/24(水)・3/3(水)・3/10(水) (全3回)  
時 間：13:30~15:30  
会 場：プラザおでつて 3階大会議室・4階リハーサル室  
内 容：男女の性差に着目した「女性外来」の仕組みを知り、女性がかかえるさまざまな体と心の健康について学びます。  
講 師：加藤 幸さん(盛岡医療生協組合 川久保病院内科医(女性外来担当))  
島田詩子さん( XティカルフィットネスLa・La 健康運動指導士)  
対象/定員：30代~50代の女性 / 20人  
申込方法：1/27(木) 10時から電話(604-3303)にて先着順に受付



### 起業応援フォーラム ~広げよう! わたしのアグリビジネス

日 時：2/20(土) 13:00~16:15  
会 場：プラザおでつて 3階おでつてホール  
内 容：起業にチャレンジする女性を応援するフォーラムです。(女性と起業に関する講演、女性農業者による商品プレゼンテーション等を予定)  
対象/定員：起業をめざす女性、テーマに関心のある方(男女)/50人  
託 児：6カ月~就学前のお子さん、先着5人(有料)  
申込方法：2/5(金) 10時から 電話(604-3303)にて先着順に受付

### シングルマザー暮らし安心セミナー

日 時：3/14(日) 14:00~16:00  
会 場：もりおか女性センター本館 生活アトリエ  
内 容：シングルマザーたちが安心して生活を送るための応援セミナーです。  
講 師：内田ちえ子さん(しんぐるまざあず・ふぉーらむ会員、北区男女共同参画センター専門スタッフ)  
対象/定員：シングルマザー、またはこれに準ずる方 / 20人  
託 児：6カ月~就学前のお子さん、先着5人(無料)  
申込方法：2/23(火) 10時から 電話(604-3303)にて先着順に受付



## ● 事業の終了報告

### なくそう! 女性に対する暴力 2009 終了

「女性に対する暴力をなくす運動」週間(11月13日~20日)として、映画上映会、講演会、パネル展示、メッセージ付きTシャツ展示、パープルリボンプロジェクトなど様々な事業を行いました。また期間中は、東北電力岩手支店の協力により、おでつてから眺める鉄塔がパープル色に点灯しました。ご来場いただいた皆様、事業に賛同していただきました皆様、ありがとうございました。

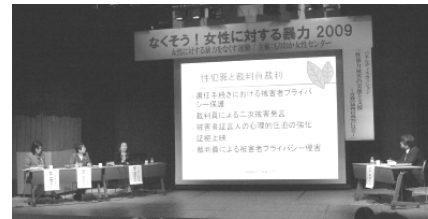
20日最終日は、おでつてホールを会場に、基調講演会とパネルディスカッションを開催しました。

「被害者支援からみた社会の変化と課題」と題し、いわて被害者支援センター理事の中谷敬明さんから日本における犯罪被害者支援の流れの説明と、「犯罪被害者等基本法」とその後の法改正まで、分かりやすくお話をいただいた後、さらに今ある問題点を指摘していただきました。

続くパネルディスカッションでは「性暴力被害の実態と支援」と題し、始めに昨年9月に青森で行われた強盗強姦における裁判員裁判の取材記者である飯田裕美子さん(共同通信盛岡支局)から、掲載新聞記事を資料に裁判を振り返りました。

その後、実際に裁判を傍聴し、被害者の支援活動に当たった斉藤直子さん(NPO法人ウィメンズネット青森)、柳本祐加子さん(中京大法科大学院)から、性被害裁判の実態と具体的な支援についてのお話があり、参加者からは「被害女性のために一生懸命考え、行動している姿に心を打たれた」との感想がありました。

岩手でも1月早々に県内初の裁判員裁判が開かれることから、今回の事業は、参加者の皆さんにとっても、より身近にこの問題を考える機会になったと思います。



今回映画上映をした「纏足(てんそく)~10センチの黄金蓮花をさがして」のDVDは本館図書コーナーで貸出しています。どうぞご利用ください。

## ● トピックス 「女子差別撤廃条約採択30周年」

### 国連女性差別撤廃委員会からの勧告

国連の女性差別撤廃委員会は、日本における女性差別の現状を6年ぶりに審査し、「日本政府の対応は不十分」「早急に対応すべき」と勧告しました。

勧告内容は雇用、暴力防止など26項目にもなり、前回(03年)の倍以上。女性差別解消に向けた日本政府の取り組みが進んでいないことを厳しく指摘し、夫婦同姓や結婚可能年齢の男女差といった民法の差別的規定の改正や、女性の雇用環境の改善などを求めました。

審査では少子化・男女共同参画担当大臣の任命、女性の社会進出の数値目標などを盛り込んだ第2次男女共同参画基本計画の策定といった取り組みを評価した一方、一般職と総合職などの「コース別雇用管理」の形をとった「間接差別」への懸念が表明され、結婚最低年齢の男女差、女性だけに課した再婚禁止期間、夫婦同姓強制などを定めた民法の差別的規定については「即時改正すべき」と勧告しました。

## ● 図書コーナーより

♪~今年度  
女性センターの事業に関わった講師の方々の関連図書をご紹介します♪

『堂本暁子と考える医療革命~性差医療が日本を変える』  
(著者: 堂本暁子/天野恵子)

♪医療再生の道しるべとして千葉県が行った医療改革。必見! 「性差」を取り入れた医療と健康づくり政策。

『千葉県知事 堂本暁子のDV施策最前線』  
(著者: 堂本暁子)

♪著者が千葉県知事の時、県を挙げてDV防止法制定に取り組み、法律をつくった。千葉県の取り組みとDV防止法ができるまで。

『子どもにやさしいまちづくり  
-自治体子ども施策の現在とこれから-』  
(著者: 喜多明人/荒牧重人/森田明美/内田塔子)

♪今、子どもの育ち支援のために取り組まなければならない自治体の課題と施策とは…。

『子どもの権利研究 第6号 (Children's Rights Journal)  
-特集 これからの子ども施策-』  
(編集: 子どもの権利条約総合研究所)

♪子ども施策-何をどのように創るか-施策づくりと子どもの視点・参加/子ども参加のまちづくり...他

『ヒア・バイ・ライト(子どもの意見を聴く)の理念と手法  
-若者の自立支援と社会参画を進めるイギリスの取り組み』  
(編著: 奥田陸子)

♪子どもの意見に耳を傾け、大人と子ども・若者で社会の仕組みをよりよいものに変えていこうというもの。その実践方法が絵や図で分かりやすく解説されている。

『女性学をつなぐ -女性学研究会アーカイブス-』  
(編集: 女性学研究会)

♪本書Ⅲ部構成の第Ⅱ部の座談会では、日本の女性学研究的な第一世代たちが、次世代である若い研究者たちに今までの研究の成果のバトンを渡していく…。

※『女性学をつなぐ』のみ両館所蔵。その他は本館所蔵。どうぞご覧ください

<主要関心事項及び勧告(審査で指摘された問題点)>

- 民法に差別的な法規定が残っていること(婚姻年齢、離婚後の女性の再婚禁止期間、非嫡出子に対する差別)
- 女性差別の具体的な定義が国内法に欠けている
- 女性に対する暴力に関して意識啓発を含めた取り組みを強化
- 性暴力を内容としたゲームや漫画の販売の禁止
- 政治的・公的活動への平等な参画
- 男女の賃金格差の是正
- マイノリティ女性に対する差別の撤廃
- 民法改正と暫定的特別措置の実施の状況を2年以内に提出 など

